

# 令和6年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名	三木市立 吉川小学校
-----	------------

## 1 学校教育目標

心豊かに たくましく 学びを深めあえる子の育成 ～ ふるさとを愛し 夢を育む 学校づくり ～

## 2 本年度の重点目標

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策の変更を踏まえ、豊かな学びを継続する。
- (2) 心の通い合う学校づくりを通して、心豊かな人間性の育成に努める。
- (3) 健やかな心と体を育て、たくましく生き抜く力を身に付けさせる。
- (4) 認め合い、支え合う特別支援教育の推進
- (5) キャリア教育の推進
- (6) 組織力を高め教職員の勤務の適正化に向けた取組を推進し教育活動のさらなる充実を図る。

## 3 自己評価結果

( アンケート結果による達成基準 : 4 よくあてはまる 3 大体あてはまる 2 あまりあてはまらない 1 あてはまらない )

※アンケート結果の3と4の肯定的評価を計上している。

【 A : 達成している(アンケート等の結果80%以上達成) B : 概ね達成している (70%~80%以上達成) C : あまり達成していない (60%~70%以上達成) D : 達成していない (60%未満) 】

評価項目	今年度の最重点評価項目 (1つまたは2つ)	取組(達成)の状況		評価	総合評価	改善の方策
		対象者	評価指標・評価方法等 (質問紙調査を実施)			
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習意欲の向上を図り、基礎的基本的な知識・技能を習得させる。</li> <li>○本校研究主題並びに「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を研究・実践するなど、授業改善に努める。</li> </ul>	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元内自由進捗学習やフリースタイルプロジェクト(個人総合)など児童主体の学習形態に、進んで取り組むことができたか。⇒児童用アンケートで80%を達成する。⇒90.7%</li> <li>○基礎基本の知識・技能の習得と自分で学習を進める力をつけることができたか。⇒児童用アンケートで70%を達成する。⇒89.0%</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の中で、学習者主体の授業づくりのについての意識改革に取り組むことができたことが大きな成果である。しかし新しい取り組みに対して、さらなる研修が必要であると感じる。</li> <li>・自分で計画したり、自分のペースで取り組んだりする授業に進んで取り組んでいる児童が90%を超えた。一斉教授型授業からの転換期にある現在、児童は大人が思っている以上に、新しい授業スタイルに柔軟に対応し、成果をあげることができた。</li> <li>・教職員・児童アンケートの結果に比べて、保護者アンケートの結果が極端に低かった。「子どもは教科で担当教員が代わることにより、授業が分かりやすいと感じている」が69.0%、「子どもが自分で計画したり自分のペースで取り組んだりする授業が増えたと言えるか」が60.6%となっている。日々の学校からの情報発信の方法を再考することや、子どもたちの生の声が現状打破する鍵だと感じる。</li> </ul>
		教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元内自由進捗学習やフリースタイルプロジェクト(個人総合)などの新しい学習形態に取り組む、学習者主体の授業づくりについての意識改善に取り組むことができたか。⇒教職員用アンケートで80%を達成する。⇒90%</li> <li>○タブレット等を活用し、基礎基本の知識・技能の習得と自分で学習を進める力をつけさせることができたか。⇒教職員用アンケートで80%を達成する。⇒93.3%</li> </ul>	A		
		家庭や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちは授業をわかりやすいと話しているか。⇒保護者用アンケートで80%を達成する。⇒69.0%</li> <li>○単元内自由進捗学習やフリースタイルプロジェクト(個人総合)など新しい学習形態に、子どもが進んで取り組むことができたか。⇒児童用アンケートで80%を達成する。⇒60.6%</li> </ul>	C		
道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの多様な意見を受け止めたり、お互いの意見を尊重したりする温かい授業づくり</li> </ul>	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳の授業の中で、道徳的課題について自分の考えを持ったり、意見の交流をしたりする事ができているか。⇒児童アンケートで80%以上を達成する。⇒95.6%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業では、ICTを活用して学級の意見を交流することで、発表を苦手とする児童が自分の考えをまわりに伝えることができた。また意見集約の時間も短縮され、短時間でたくさんの考えに触れることができた。意見を「言葉で伝える力」をこつこつと指導し、伸ばしていきたい。</li> <li>・教材を①ICTで表示し写真や絵を提示する②教科書の文字を目で追うの2つのパターンで提示し、児童自身で学びの方法を選べるよう工夫した。</li> <li>・親子で教材を読んで考える課題に、延べ115名(93%)の保護者が親子で取り組む事ができた。道徳の教材を家庭で読んだり話し合ったりできるよう、普段の課題等で提示していきたい。</li> </ul>
		教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもが多様な意見を言える授業づくりに取り組む事ができているか。</li> <li>○子どもの道徳的価値に関する考えや、成長を捉える事ができているか。⇒児童アンケートで80%以上を達成する。⇒93.3%</li> </ul>	A		
		家庭や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭で道徳教材を読む機会を設け、親子で考える教材などに取り組む。⇒保護者参加率80%を達成する。⇒71.5%</li> </ul>	B		
人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権の啓発を通じた、多様性の尊重と自尊感情の育成</li> </ul>	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分や友達の良い行いに目を向け、自尊感情を高め合うことができたか。⇒児童アンケートで80%以上を達成する。⇒94.8%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、保護者と児童と一緒に聞ける親子スマホ安全教室を開催した。今まであった人と人との直接的な人権問題だけでなく、今後増えるであろうインターネットを通じた新しい人権問題に親子で考える機会を持つ事ができた。親子人権学習参加の内容については、今後PTA等とも相談し、更に充実したものにしていきたい。</li> <li>・教育事業(スマイル学級)では「仲間づくり」に重点を置いて活動してきたが、人権・部落差別の問題にも触れ、児童や保護者・地域も共に人権についての学びを進める場にした。</li> <li>・児童一人ひとりを励まし認める言葉かけをし、安心して過ごせ共になげられる仲間づくりを進めた。</li> </ul>
		教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの良い所を見つけ、それを子ども達に伝える事ができたか。</li> <li>○同和教育、人権教育などの研修を受講し、人権意識を高める。⇒年度内に2回以上受講する。</li> </ul>	A		
		家庭や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よかわっすスマイル参観、冬休み人権週間、親子スマホ安全教室に参加したか。⇒保護者出席率80%以上を達成する。</li> <li>よかわっすスマイル参観(84%)、冬休み人権週間(93%)、親子スマホ安全教室(52%)</li> </ul>	B		
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の多様な教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実</li> </ul>	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達一人一人の違いを大切にし、互いに助け合える人間関係ができているか。⇒児童アンケートで80%以上を達成する。⇒94%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人ひとりの個性や多様性を尊重し、互いに助け合える人間関係を構築するため、教職員による定期的な会議を開催した。特に支援が必要な児童については、ケース会議を随時開催し、関係の教職員、養護教諭やスクールカウンセラーなどが集まり、より専門的な視点からの適切な対応について検討を重ねた。</li> <li>・スクールソーシャルワーカーによる研修会を開催し、児童をとりまく様々な背景や、それらを踏まえた具体的な対応について話し合った。今後も、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの校内の人材、子育て支援課や医療機関などの外部機関と連携を図り、児童への支援を強化していきたい。</li> <li>・保護者には、個々の状況に合わせて特別支援教育に関する相談窓口や関係機関等の情報提供や案内をした。今後も学校と保護者が連携し、共に子どもの成長を支援していくことができるよう、保護者が気軽に相談できる場を整えるなど工夫していきたい。</li> </ul>
		教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期的に全職員での児童の情報交換と適切な指導・支援方法の共通理解を図ることができたか。⇒気になる児童の様子、支援の方法等を記録に残す。⇒100%</li> <li>○児童一人一人に応じた指導方法の充実を努めたか。⇒教職員アンケートで80%以上を達成する。⇒93.3%</li> <li>○医療・福祉機関や教育センター等、児童を中心とした関係機関との連携ができているか。⇒教職員アンケートで80%以上を達成する。⇒86.7%</li> </ul>	A		
		家庭や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童は一人一人の違いを大切にし、互いに助け合える人間関係をつくらうとしていると感じるか。⇒保護者アンケートで80%以上を達成する。⇒92.3%</li> </ul>	A		

## 4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

・アンケート内容を理解出来ずに評価している箇所も見受けられるので、しっかりと補足をしたほうが良い。その結果保護者のアンケート評価が落ちた原因と思われる。

・最重点評価目標それぞれの課題達成に向け、教職員は児童が学び、体験し、健やかに成長するよう日々時間を惜しまず取り組んでいる。

・教職員にもっと時間があれば、内容はもっと濃いものができるのではないかと思います。

・評価などで示された過不足について振り返り、次年度に繋がる改善策をそれぞれに立てられている点を踏まえ、評価はおおむね「妥当」とする。

・全体的に適切に評価されていると思う。この評価項目だけでは見えてこない問題点もあると思うので、それを今後に生かしていくためにその都度、共有・連携しながら次年度に生かすことよいためではないか。

## 5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価		
妥当である	過大評価である	過小評価である
○		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の協力を得て評価を得るため、日々の学校からの情報発信の方法や設問の意図や思いをどのように伝えるかが大事だと思う。</li> <li>・自由進捗学習やフリースタイルプロジェクトについては、結果だけでなくその学習過程が大事だと思う。保護者に児童の学習過程をこまめにてもらったり情報発信したりして理解を得る方策が必要である。</li> <li>・保護者の理解やイメージが深まるのには、実際に体験していないためもう少し時間が必要だと思うので、評価の差は埋められてくるのではないだろうか。</li> <li>・保護者アンケートの結果が低かったとのことだが、現場では高い評価であるため良い取組ができているのだと思う。</li> <li>・保護者評価がC評価とされたことは、重く受け止めないといけない。</li> </ul>
○		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭において親子で取り組めるように、取組意図を保護者へどのように伝えるかが鍵になると思われる。</li> <li>・親子で道徳教材に取り組む際の参加率が目標に届かなかったのは、それぞれの家庭の意識の問題ではないだろうか。</li> <li>・家庭内で親子で取り組む道徳教材の提示は、紙ベースだけでなくICTを活用し「タブレット」を活用したデジタル教材提供などにもトライしてもいいのではないかと。</li> <li>・意思表示が苦手な児童でも、ICTを用いることで自分の考えを周囲に示すことができるのは利点だと思う。それにより躊躇なく意思表示ができることにつながるのではないかと。参観日などで道徳の授業に参加していて、いつも分かりやすい。</li> <li>・自分の考えを聞いてほしい、わかってほしいという思いをもって人に伝えようとする気持ちを育ててほしい。</li> </ul>
○		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを通じた新しい人権問題など、こちらに関しても教職員が工夫されているのがわかるが、表記の通り人権の様々な問題にも触れ、学びを進めてほしい。</li> <li>・身近なところにある人権課題を見逃さず、それを解決しようとする気持ちを育ててほしい。</li> <li>・同和問題を知らない子どもの方が多い中、教材にすることで現実の問題と知って理解し、考察できたことはこれからの人生に役立つと思う。</li> <li>・スマホやタブレットが生まれた時から身近な環境にある現代っ子は、自分である程度のリスク管理を身につけておく必要があり、親子で同じ教材で学べたことは親子のコミュニケーションにもなり、いい機会になった。</li> <li>・教職員は忙しい中、一人ひとりの子どもたちの長所に目を向け、認める言葉かけをしてきているのはありがたい。自己肯定感が向上し、学校の居心地もよくなっていると思う。</li> </ul>
○		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の各関係機関との連携が重要な点でもあると思われるので引き続き連携力を高めていけるようにしてほしい。</li> <li>・教育的視点でニーズを捉え、専門職種との連携や教員間での情報共有をして、一人ひとりの背景や個性に合わせた関わりをしているとわかった。</li> <li>・誰でも気軽に相談が出来るような場を整えるように、工夫して取り組むことを期待したい。</li> <li>・子どものことで悩みを持つ保護者は多いと思われる。これからも、気軽に相談できる関係づくりをしてほしい。</li> <li>・学校全体でしっかり取り組まれている。</li> <li>・大きないじめ事案も発生していないとのこと、子どもたちにもお互いの違いを受け入れながら、認め合える心の寛大さが知らず知らず身に付いているのだと思う。</li> </ul>

生活指導	○いつでも誰にでも相手を見て気持ちのよいあいさつを習慣化するように継続した指導	児童	○自分から相手を見て気持ちのよいあいさつや返事ができているか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。⇒86.8%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが相手を見て気持ちの良いあいさつができるように、学級担任だけでなく、携わる教職員全員で言葉掛けを行うなどして励行してきた。課題としては、高学年は肯定的評価が低学年に比べて少し低くなっている。引き続き気持ちのよいあいさつが子ども達からできるように児童会と連携しながら、自分たちの様子について振り返りをさせるなどし、学校全体として取り組みを進めていく。</li> <li>今年度は、学校生活のきまり『よかわっ子のくらし』を、子どもの意見を取り入れて見直し、吉川中学校とも意見交流をしている。生活指導上の課題については、月毎に教職員で共通理解を固りながら、子ども意識づけるようとりくんだ。</li> <li>保護者アンケートの結果から、各家庭内であいさつの声掛けをしているのは88.0%であった。今度も継続できるように、学級懇談会や学校だより等を通じて、保護者に協力を呼びかけていきたい。</li> </ul>	○		
		教職員	○子どもに返事・掃除・時間を守るなどの生活を意識させることができましたか。 ⇒教職員アンケートで80%以上を達成する。⇒93.3%	A					
		家庭や地域との連携	○子どもたちが、気持ちのよいあいさつをするように声掛けをしたか。 ⇒保護者アンケートで80%以上を達成する。⇒88.0%	A					
安全防災教育	○災害から自らの命を守るための学校・保護者と連携した防災訓練の実施	児童	○災害や日常生活にひそむ危険から、自分の身を守る方法を知っているか。 ⇒防災・安全に関するアンケート（3学期実施）の正答率80%以上の児童が全校生の8割以上を達成する。⇒98.2%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も、教職員による毎月の安全点検は、学期ごとに点検者を変更した。その結果、異なる視点から点検を行うことにより、気づきにくい破損箇所や今後破損すると考えられる個所を見つけることができた。今後も継続していく。</li> <li>引き渡し訓練、地域防災訓練などを通じて、災害時に役立つ知識や行動について保護者や地域の方とともに学ぶ機会を持つことができた。</li> <li>地域・保護者・児童が一体となって行う避難訓練を想定して実施していきたい。今後はしっかりと周知して行っていく。</li> <li>防災教育副読本「明日に生きる」や道徳教材を活用して、事前指導や事後指導も各学年で行い、どうすれば安全に避難できるのかを改めて確認することができた。</li> <li>「明日に生きる」はデジタル版を活用することで、最新の情報を得られるようにしていきたい。</li> </ul>	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度より地域との触れ合いは多くなってはいるが、スクールバスの利用により地域との触れ合いが希薄になっているので、スマイル学級等を通じて今以上に地域の方が参加できる場、参加する機会が増えればと思う。</li> <li>・あいさつを重視する趣旨やねらいを児童・保護者に理解してもらい進める必要がある。</li> <li>・「挨拶」は社会の窓口・玄関、コミュニケーションを円滑にし、人と人との繋がりを作るためにも大事なことで、道徳教育等の時間等も有効に活用することも検討されては。</li> <li>・学校に行くと、挨拶してくれる子どもが少ないように思う。校外では見ず知らずの人にまで挨拶しなくても、来校者には挨拶をするように意識づけしてもよいのではないかと思う。それぞれの家庭での習慣も影響していると思うが。それ以外の返事・掃除・時間を守る等の行動は出来ているのはよかった。</li> </ul>
		教職員	○「明日に生きる」や道徳教材等を使って、自他の命を大切にする指導を継続できたか。 ⇒年度内における指導を各学年で2回以上は行う。	A					
		家庭や地域との連携	○引き渡し訓練や警報時の引き渡しの際に、円滑に行うことができたか。 ⇒保護者アンケートで80%以上を達成する。⇒97.9%	A					
食育・健康教育	○健康づくりや体力づくりについて意識を持ち、丈夫なからだづくりをしようとする力の育成	児童	○給食を味わって残さず食べたり、体育や休み時間にのびのびと体を動かしたりしたか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。⇒88.0%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間は部屋の中で過ごすことを好む児童が一定数いる。遊び道具を増やしたり、外遊びの楽しめる企画を考えたりするなど、子どもたちが自分から外に出たくなるような取り組みを考えていきたい。</li> <li>・感謝して食べることについて、今年度は食育委員会で児童集会での発表やポスター作り、給食の放送など意識して活動してきた。しかし、家庭で食や運動について学校での様子を話す機会が少ない。給食の放送の内容を子ども向けに分かりやすくしたり、クイズを追加したりするなど、内容を工夫することで、家庭での話題につなげていきたい。</li> </ul>	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練等 安全・防災に関することに地域の人々がもっと参加できるように工夫し、地域全体で防災意識を高められるようになればと思う。</li> <li>・バスルート及び地域ごとに、子どもの目線からの危険箇所など探索することも必要だと思う。</li> <li>・教職員による毎月の安全点検では、年に一回は専門家の目で見てもらうと安心だと思う。</li> <li>・災害時の動画は有効であるが、児童の心的ストレスになることもあるので、様子をみながら活用してもらいたい。</li> <li>・警報時等の「引き渡し」は、子どもの安全を考えると本来は「100%」。アンケートで「100%」とならなかった要因を保護者等と交え、その出来なかった状況の要因と対策を立てて欲しい。</li> <li>・防災・安全に関するアンケート（児童）で正答率が高いところから、身につけていることが分かる。</li> </ul>
		教職員	○朝の健康観察や給食、学習等の時間で、望ましい生活習慣（食生活・健康づくり・体力づくり）を意識づける指導したり、授業時間を守って遊ぶ時間を確保したりしたか。 ⇒一日一回以上、指導したか。教職員アンケートで80%以上を達成する。	A					
		家庭や地域との連携	○子どもの健康・体力づくりの取組に理解が得られたか。 ⇒学校での体を動かす活動（外で遊ぶ・体育・水泳・マラソン等）や給食について、家庭で話をしているか。保護者アンケートで80%以上を達成する。⇒79.6%	B					
教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究テーマ実現に向けた授業実践</li> <li>○ふるさと教育の充実に向けた地域との連携の在り方の構築、吉川小独自の教育課程の創造</li> </ul>	児童	○児童は学校生活が楽しいと思っているか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。⇒96.6%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを授業に取り入れながら、子どもたち一人ひとりが自分にあった学びを進めていけるように、タブレットを活用した個別最適な学びを積極的に行うことで、児童一人ひとりの自ら学ぶ力を高めていくことができた。</li> <li>・校内外の研修会に積極的に参加し、自らの授業について考える機会を得ることができた。今年度は「子どもたちが主体的に学びを創る授業づくり」をテーマに、ICTの活用、個別最適な学び、協働的な学びを意識した授業づくりについて取り組んだ。今後も研修等で得た知識を活かし、授業力向上につなげていく。また、保護者に対して、新たな学びについて説明し、協力していただけるように取り組んでいく。</li> <li>・吉川町まちづくり協議会、JAみのり、吉川町農産物生産者共同体「ようしゅう会」、三木市ゴルフのまち推進課等との連携を固り、多くの体験活動、探究学習を進めることができた。これらの活動を通して、普段の生活や学習に生かしたり、またふるさと吉川の「良さ」に気づき、地域に発信できるような教育活動につなげていく。</li> </ul>	○		
		教職員	○学習者主体の授業づくりのために、教職員間で学び合えたか。 ⇒校内での授業参観を積極的に行い、意見交流する。 ○センター主催の研修会等に積極的に参加することができたか。 ⇒担当である研修会以外に3回以上は参加する。	B					
		家庭や地域との連携	○キャリア教育の充実を図り、地域の産業や公共施設等に出向き、ふるさと吉川の取組に積極的に参画することができたか。 ⇒地域のゲストティーチャーを招いての学習計画を年間1本以上行う。	A					
家庭・地域との連携・小中一貫教育	○コミュニティ・スクールを通して、小中一貫教育の推進を図る	HP等	○HP等の随時更新、充実を図ることができたか。 ⇒週に数回ホームページを更新することができた。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校通信、ホームページ等で学校での日々の様子を伝えることができた。今後はTeams等で、日常の学校生活、行事等を保護者、地域へ発信していきたい。</li> <li>・案内は約1か月前には配付し、保護者への参加を呼びかけた結果、高い参加率を達成することができた。PTAとも意見交流をしながら、さまざまな活動において協働体制を確立していく。</li> <li>・昨年度から学校運営協議会がスタートし、中学校と連携して学校行事を事前に伝え、学校行事だけでなく学年行事等にも参加いただくことができた。今年度は来年度の小中合同運動会を見越して吉川中で運動会を実施したが、ほぼすべての委員の方に参加いただいた。地域・保護者も競技に参加いただいた。また、地域防災訓練にはまちづくり協議会の協力を得て一緒に行った。今後も連携をとりながら、学校・地域・保護者が一体となって子どもたちを育んでいきたい。</li> </ul>	○		
		教職員	○事前案内をできるだけ早い時期に配付し、オープンスクール等の学校行事の出席率を高めることができたか。 ⇒保護者の出席率80%以上を達成する。→ オープンスクール出席率83%	A					
		家庭や地域との連携	○学校運営協議会の各委員等に可能な限り学校行事等へ出席いただく。（一人概ね年3回程度） ⇒オープンスクール・運動会等に多く参加いただいた。	A					